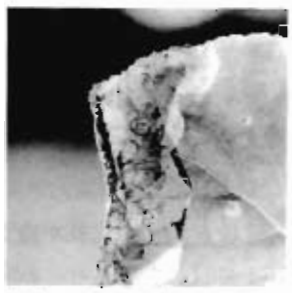
シラカンバの害虫

問　シラカンバの葉が5月下旬に褐変し，縮れてしまいました。原因と対策をお知らせ下さい。　（美唄市　S.N.生）

答　この被害はスイコバネガという蛾の幼虫によるものです。この幼虫は葉の中にもぐって葉肉だけを食べます。食害されたあとには表皮のみが残り，褐変して縮れてしまいます。ちょっと見ただけでは病気と間違いそうですが，葉のなかが中空になっていることや，透かして見ると中に幼虫のフンが残っているので，昆虫による被害であることが分ります。このように葉に潜って，中の柔組織を食べる昆虫のことを潜葉性昆虫（leaf−miner）といい，それが蛾の幼虫の場合はハムグリガと呼ばれます。また，潜って食害した中空の部分を潜孔（mine）といいます。

シラカンバを加害するスイコバネガは数種類いますが，どの種も生活史はほぼ同じです。4月中旬から5月上旬に成虫が羽化し，ふくらみ始めた芽に卵を産み込みます。ふ化した幼虫は，この種に特徴的な糸状に連なったフンを排出しつつ潜孔を拡大していきます。5月下旬に体長8mmほどになり，表皮に穴をあけて脱出し，土中に潜ってマユを作ります。このまま越冬して，翌春に蛹化し成虫になります。幼虫が葉から脱出した後，潜孔あとは褐変して縮れ，2週間ほどの間に落葉してしまいます。展葉してすぐ食害をうけ，6月中旬には落葉します。7月には二次伸長して展葉するのですが，春材の形成に重要な時期に光合成できないわけです。この蛾は飛翔力が弱く，樹高10m以下のところで多く発生します。ひとたび大発生すると毎年激害が続き，8割の葉が落葉したこともあります。このような場合は防除が必要です。方法は成虫羽化期にスミチオン乳剤1000倍液を散布します。幼虫期であれば，ダイアジノン乳剤1500倍液が適当です。いずれも展着剤を添加して，木から滴る程度に散布します。これは10a当り45ℓぐらいです。



糸状に連らなったフンが見える潜孔（mine）―シラカンバのスイコバネガの幼虫によるもの。

シラカンバの潜葉性昆虫には，このほかにハバチ類がよく目につきます。加害時期が，5月下旬からで，スイコバネガより遅く，また潜孔の中のフンも粒状にちらばっており，スイコバネガのように糸状になることはありません。防除方法はスイコバネガと同様です。

スイコバネガは各種の広葉樹を加害しますから，広葉樹造林が増すにつれて問題となりそうです。

なお，広葉樹に，フンが糸状に連らなったハムグリガがいましたら御連絡下さい。　（昆虫野兎鼠科　東浦康友）

スイコバネガ幼虫の潜孔後に，ちぢれてしまったシラカンバの葉